

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第3回津久井総合事務所周辺公共施設再整備基本計画策定検討会議		
事務局 (担当課)	緑区役所区政策課 電話042-775-8802 (直通)		
開催日時	令和6年8月19日(月) 午後3時～4時35分		
開催場所	緑区合同庁舎5階会議室A・B		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	12人(区政策課長、津久井まちづくりセンター所長他10人)	
	運営等支援 業務受託者	2人(株式会社三菱総合研究所)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 前回の振返り (2) サウンディング調査の結果について (3) 市民活動機能の活動イメージについて 3 その他 4 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言 ●は事務局の発言)

1 開会

緑区役所区政策課長の進行により、会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開の確認を行った。また、傍聴希望者1名の傍聴許可について伺い、承認された。

2 議題

志村座長の進行により、議事が進められた。

(1) 前回の振返り

事業地内の土石流の想定について県に確認した内容、土砂災害の対策や事業地内での道路付け替えに係る検討内容について事務局より説明した。

○道路の付け替えは行わない方向との理解で良いか。(久保委員)

●道路の付け替えに係るコスト及び工期の増加が見込まれるとともに、道路の下に埋設されている上下水道管等のインフラ設備の移設も必要になるため、事務局としては道路の付け替え等の対応は想定しない方向である。

(2) サウンディング調査の結果について

調査結果について事務局及び運営等支援業務受託者より説明した。

○DBOとDB+指定管理者制度の事業手法を比較した場合、前者の方が事業期間中の行政・利用者ニーズに応じた運営業務を変更し難いという意見があるが、事業期間中で事業者の構成員を変更できないことが理由か。(朝日委員)

●そのように認識している。

○指定管理は仕様発注のイメージが強いが性能発注も可能なのか。(朝日委員)

●指定管理であっても、公募型プロポーザル等による事業者選定を想定しており、指定管理者に対して定める業務水準は明確にしつつ、指定管理者が自主事業として提案できる範囲も設けることで性能発注が可能になると考えている。

○小中学校との連携のしやすさという観点では、事業手法によって差はあるか。(朝日委員)

●いずれの事業手法であっても業務水準を明確に定めることで大きな差は生じないと考えている。

○西メディカルセンターに関する意見は得られているか。(吉野委員)

●今回のサウンディング調査では、調査項目を広く設定しており、整備パターンや事業手法に関する意見が多かった。

○公民館事業で、子ども食堂や無料塾等の事業は実施されているか。(吉野委員)
○社会福祉協議会が子ども食堂を開催し、公民館は実施場所として調理室と研修室を提供している。夏休みには橋本公民館で子どもの学習支援が実施されていると認識している。津久井中央公民館では実施していないが、橋本公民館まで出向いている津久井の子どもたちもいると聞いている。(高井委員)

○災害対策の運用等を踏まえて維持管理運営と設計・整備を一括で実施できると良いと思う。(久保委員)

○サウンディング調査の結果からも整備パターン1(1棟建て)の方向で市では検討していく方向性になるものと認識している。(志村座長)

○維持管理や雨天時の移動などを考えると1棟建てが良いと思う。(熊谷委員)

○防災面から1階を駐車場、2階以上に各機能を置く考え方もあると思う。(高井委員)

○DB方式は、建設を見込んで設計を行うことでより良い空間活用を実現することが本来の目的であるが、昨今の事例ではコスト削減の意味合いが強いと思う。市民ワークショップでの検討背景や、管理運営のアイデアを踏まえて、創造的な事業手法にできると良いと思う。

また、既存の活動団体がどのように関わることができるか考えられると良いと思う。(志村座長)

○事業者も事業期間が長いとリスクを取って様々なことができると思うが、中々出来ていないのが現状ではないか。本事業のような事例では、行政の動きに影響を受けることもあり、事業者提案に任せきるのが難しいのではないかと。柔軟な運営ができる余地を残しておくのが良いのではないかと。思う。(朝日委員)

●事業者側からは長期的な見通しがしにくいとの意見もあった。子ども食堂等、管理運営のアイデアについて業務水準の在り方等、可能性を検討していきたい。

○近隣の中野小学校、中野中学校から意見聴取はしているのか。(志村座長)

●聞き取りは行っていないが、本事業の取組説明等の必要性は認識している。

○総合事務所に子どもが立ち寄れるようになった場合のアイデアや工夫、考慮すべき事項など、教育委員会の考え方も聞いてみたい。(志村座長)

○涼みながら遊べる、夏休みの居場所、気楽に来られる場所、大人目もある場所があるとありがたいという意見を小学校の教諭から聞いている。実態を把握する必要があると思われる。(吉野委員)

○公民館利用者は、建替えによってどれくらいの期間使えなくなるのか、代わりに利用できる施設があるのか心配している。

複合化によって貸室を共用することになると思うが、利用希望が重なって活動できなくなることを懸念している。また、現在、老人福祉センターの貸室は無料だが公民館の貸室は有料であるため、今後複合化した場合にどのようなようになるのか心配する利用者が増えてきている。

一方、今後の人口減少も踏まえて貸室を過度に整備して使用されない状況になることも芳しくないことも理解している。（高井委員）

○整備方法の具体化に向けて引き続き検討を進めてほしい。（志村座長）

○代わりに利用できる施設として近隣の公民館の利用も考えられるが、自家用車で移動できない高齢者はバス移動となるが城山公民館はバス停から遠い。工事の影響で利用できない期間がどれくらいになるかは早めに把握しておきたい。（高井委員）

●工事中は近隣の公共施設を使っていただくようお願いすることになる想定である。整備パターンや事業手法によっても利用できない期間も変わってくるので今後検討を進めていきたい。

○物価高騰を踏まえると仮設庁舎の建設費も膨らむ可能性がある。可能であれば、小学校の空き教室を使えるとコスト面からも良いと思う。（志村座長）

○サウンディング調査で得られたアイデアのうち、地域特産品の販売等は市民ワークショップで意見がなかったと思うが、どのように考えるか。（志村座長）

○あぐりんずつくいが近隣にあるため競合するのではないか。あぐりんずつくいや津久井湖観光センターで地元特産品を売っているが生産者も減ってきており難しいのではないか。（熊谷委員）

○屋外トイレ設置の可能性があるのであればツーリングの人が気軽に立ち寄れると思う。近くにふるさと納税の返礼品の自動販売機のような機能があっても良いのではないか。（久保委員）

○建物内のトイレでもセキュリティの工夫で対応できる可能性も考えられる。（志村座長）

○防災拠点として重点を置いてほしい。災害時の対策本部機能や備蓄をしてもらえると良い。（熊谷委員）

○JAとは意見交換を行っているか。（志村座長）

●事業説明をした際に意見を伺ったが、新しい施設での連携イメージも具体化していないので、まずはイメージの整理について検討したい。

- 災害時には、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置すると思われるため、その活動スペースも必要になるのではないかと。（吉野委員）
- 令和元年の台風19号の際には総合事務所前の駐車場スペースを使っていたと記憶している。活動スペースについて考慮してもらえると良い。（久保委員）
- 商店街側にバス通りがあるが、国道側にバス停を移して1日に数本でも停留すると利便性が向上すると思う。（久保委員）

（3）市民活動機能の活動イメージについて

現状の検討状況について事務局より説明した。

- 公民館の倉庫も整備することを想定しているか。（高井委員）
 - 現状と同等の規模は確保するよう想定している。（事務局）
 - 現状の倉庫の他、研修室Cを倉庫として利用している。（高井委員）
 - 実態は把握している。公民館以外の施設も含めて現在の倉庫全体の利用状況を精査した上で必要に応じた規模を確保するよう検討している。
- 現状の市民活動機能の活用イメージは利用者目線での整理となっている。誰が運営するのかサービスの担い手が課題になると思う。サービスを楽しむ人がボランティアとしても活動する、という場合も想定されるのではないかと。（朝日委員）
- 部屋の多目的利用は良いと考えるが、音や匂いが出るような利用方法には不向きな場合もある。一方、共創施設を見ると仕切りがない空間や、空間の工夫でゆるやかに区切られているものもある。仕切りがないとできないことと、オープンスペースでできることがあると思う。（朝日委員）
- 昨今のトレンドとしては、多目的利用を進める傾向にある。音が響かないような工夫、簡易仕切りなどで対応することもできるのではないかと。（志村座長）
- 地震の際の帰宅困難者受入施設があるが、本施設でも運用できると良いのではないかと。（久保委員）
- 鉄道駅の周辺施設が帰宅困難者受入施設の対象になるため、本施設での運用は想定しがたい。小中学校が災害時の避難所になっており、受け入れが必要な際はまず避難所の利用を検討することが想定される。
- 災害対応を考えると、近隣の小学校、中学校、警察署と横断的な連携ができるようにしておくべきだと思う。気軽に立ち寄れる施設というだけでなく、公共施設間での訓練や市民の担い手を育てるような市民活動、訓練ができると良いと思う。（志村座長）
- 観光客をターゲットとして考えるのは、将来的に担い手になる可能性はある

が、優先度を落としても良いと思う。（志村座長）

○メディカルセンターが複合施設に入った場合に交流スペースが確保できるのか気になるところである。

また、カフェの整備は難しいと想定されるが、イベント等の際にキッチンカーが停められることを想定して規模について検討を深めてもらいたい。（志村座長）

○災害対応の観点からマンホールトイレが使えるような設備としてほしい。（熊谷委員）

3 その他

次回の検討会議の日程は、再調整する必要が生じたため改めて周知させていただく。

4 閉会

津久井総合事務所周辺公共施設再整備基本計画策定検討会議
委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
学識経験者	◎志村 秀明	芝浦工業大学建築学部建築学科 教授	出席
	○朝日 ちさと	東京都立大学都市環境学部都市政策科学科 教授	出席
地域団体	熊谷 弘	津久井地区自治会連合会 会長	出席
	上田 亜弓	津久井地区社会福祉協議会 理事(三井・名手支部長)	欠席
	高井 登志子	津久井地区公民館運営協議会 会長	出席
公募市民	久保 武史	公募市民	出席
	吉野 裕之	公募市民	出席

◎は座長、○は副座長